

Book Review



こんな時どうする？

再根管治療の困りごとと解決本

大森さゆり 著

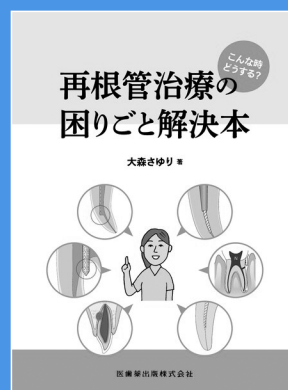


Reviewer

石井 宏 Hiroshi Ishii

(東京都・石井歯科医院)

A4 判変, 176 頁
カラー
定価 11,000 円
(本体 10,000 円+税 10%)
医歯薬出版刊



まず初めに、本書評は、著者である大森さゆり先生と臨床・教育の現場を共にしてきた立場からの推薦文としてお読みいただきたい。

私が大森先生と歯内療法の勉強会をきっかけに出会ったのが 2015 年なので、2026 年現時点でその軌跡は 10 年強となる。そして現在、大森先生は臨床医として私と大森先生自身の診療所の 2 医院で専門医として歯内療法に限定した診療を行っている。また PENN ENDO STUDY CLUB IN JAPAN にて、教育者として高度な歯内療法を提供できる専門医育成にもその資質を十二分に発揮してくれている、頼もしい存在である。

本書の特徴は、① 臨床的有益性のある内容と、② 読者への寄り添いを感じさせる著者の「臨床家・教育者」としての「思いやり」、といったいいであろう。

内容に関しては目次を見てもわかる通り再根管治療に特化している。多くの臨床家の再根管治療における興味は、ポスの除去、破折器具の除去、穿孔リペア等のテクニックに偏りがちであるが、本書においてはテクニック

と同等かそれ以上にその診断と意思決定の基準についての考察と解説がなされている。実はこのことは日本の臨床家にとって極めて重要な意味がある。

その重要な意味とは、日本にこの分野の専門医制度がないことと大きく関係している。北米のように歯科領域でも専門医制度が確立している国で、熟練の臨床家や教育者に「GP と専門医の違いは？」と質問してみると返ってくる内容はほぼ決まっている。すなわち「診断力」である。そしてその違いが生まれる理由も合わせて質問すると、

① 専門医教育を受けていること、② 歯内療法に限定した診療を行っていること、と返ってくるのがほとんどだ。この意見は私も全くの同意見である。大森先生のキャリアは、まさにこの条件をクリアしていて、その結果としての診断力は私とのケースディスカッションにおいても、手加減をさせるものではないレベルである。もちろん日本において米国のような歯内療法専門医制度はなく、故に専門医教育も存在しないわけであるが、制度的な見方においては非公式ではあるものの、大森先生は日本で唯一専門医養成レベ

ルのトレーニングが提供できるスタンディグループにおいて、時間的・経済的・肉体的・精神的コストを掛けた専門医教育を受けている。トレーニング後も十分な期間の歯内療法に限定した診療を継続して行っており、満を持して本書を完成させたと言ってよい。本書の読者はこの書籍を通じて専門医の診断でのポイントや、技術的具体策を学習することができるであろう。

一方で、ここで著者のキャリアが止まるわけではない。実際私も診療や教育の経験を積み重ねるほど過去に自分が実践していた臨床や教育が、実は知らなければいけなかったこと、より良い考え方や方法の余地がまだまだ残っており、未熟であったと感じる。5 年後の私は現在の私をきっとまた「無知であった」と評価するであろう。著者には私の経験に耳を傾けていただき、本書のアップデートとしての第 2 版、もしくは新しい形での知識の集約等、プロフェッショナルとしての歩みを止めずに、引き続き日本の歯内療法を牽引してもらうことを期待している。